

# 乗務員分科第七回定期委員会開かる

「余剰人員調整策」なる首切り「三本柱」、「国鉄再建監理委員会」の第二次緊急提言に象徴される国鉄労働運動解体攻撃が激化する情勢の中で、十月四～五日、館山市の南房荘において、「乗務員分科会 第七回定期委員会」が、本部より中野委員長・中村特執の出席を得て開催されました。

敵の攻撃を真正面であらうと闘う

——西森会長あいさつ——

委員会は第一日目、千葉転支部の植草委員を議長に選出して始まりました。

冒頭、あいさつにたった西森会長は、「われわれはこの間、労農連帯の旗のもと、三里塚反対同盟と固く連帯し、組織の総力を挙げて闘いぬいてきた地平にたつて、来るべき『60・3ダイ改』、動乗勤、基地統廃合等の攻撃を真正面からうけとめ闘いぬいていく必要がある。そのために、より強固な組織を創りあげ、新たな闘い、とりわけ反合・運転保安闘争を再構築していかなければならない」と、力強い決意を述べました。

つづいて、本部を代表して中野委員長があいさつにたち、①国鉄をめぐる情勢、②今日的動向の中でいかに闘いを進めていくのかの方向性と闘う方針が、きめこまかく提起されました。

## 活発な討論を展開

「闘いの経過」が大岩副会長、一般会計・共済会決算報告が高橋、安西両執行委員より提起され、会計監査報告の後、質疑応答に移りました。各委員からは次のような意見・質問が出されました。

- ・職制「改正」についての見とおしは、退職者の補充についてはどうか、
  - ・外勤廃止の方向ときくが、高令者対策は、踏切り対策について指定箇所が多い、
  - ・転換教育の実技2カ月は短い、
  - ・蘇我機関支区廃止絶対反対の具体的取り組みは、成田運転区縮小に対する取り組みは、
  - ・革マルII松崎の「私鉄並み」発言の真意は、定数はりつけの基準について、
  - ・「60・3」攻撃について全体化して闘うべきだ、
  - ・佐倉の転勤問題について、
- 活発な意見に対し、執行部の答弁をうけ、「経過報告」「会計報告」等を全体の拍手で承認しました。

乗務員分科は動労千葉の最先頭で闘う

委員会第二日目、「一九八四年度運動方針案」が、安田事務長より、又、「予算案」が高橋執行委員より各々提起され、活発な論議が展開されました。

- ・各委員からは、次のような意見が出されました。
  - ・「60・3」における「混運用」について、
  - ・指導、内勤—高令者対策の問題について、
  - ・外周区の東京乗り入れについて、
  - ・運転管理主任制度について、
  - ・指導業務における問題点について、
  - ・特急停車駅を統一すべきだ、
- 以上の意見に対し、執行部の答弁をうけ、「方針—「予算」を満場一致で確認し、西森会長の団結ガンバリをもって成功のうちに委員会を終了しました。

乗務員分科会は、「分割・民営化」攻撃を許さず、とりわけ首切り「三本柱」攻撃と断固として対決し、新たな反合・運転保安闘争の構築を軸としつつ、当面する「60・3ダイ改—合理化阻止—蘇我機関支区廃止反対闘争の最先頭にたつて、分科の総力を傾注して闘いぬきます。

## 一九八四年度 役員

会長	西森 巖	(四五)千葉転
副会長	渡辺 和志	男 (三九)勝浦
事務長	安田 庄一	(四五)千葉転
執行委員	内藤 潔	(四三)新小岩
“	安西 信一	(三五)館山
“	桧垣 充	(三八)成田
“	高橋 邦彦	(三九)津田沼
会計監査員	萱野 昌美	(四四)佐倉
“	阿津 栄作	(五二)幕張
“	白石 正隆	(四〇)木更津

10.21 国際反戦デー闘争  
11.3 団結祭典運動会  
11.10 国鉄労働者集会